

# さぬき再犯防止プロジェクト 中間報告



Prevent Re-Offense Sanuki(PROOS)

# 活動の目的と今年度の活動計画

本プロジェクトの目的は、地域の方たちが安全に安心して暮らせる社会を作り出すために再犯を防止することである。そのために、犯罪や非行の前歴がある方(以下、対象者)の「居場所と出番」をつくる。また、一般市民の方が差別なく彼らを受け入れる社会づくりに資する活動を行う。

再犯が行われる原因：刑事施設を出所後、家・職・身寄りがないために社会から孤立

→再犯が社会問題化

→再犯を防止するためには、「居場所と出番」を作ることが重要

そこで私たちは、

対象者の置かれている現状についての研修会を実施（活動①）し、

対象者の方との交流で、居場所と出番づくりのお手伝い（活動②）をしながら、

多くのひとたちに現状を知ってもらうために映画『プリズン・サークル』の自主上映会（活動③）を行い、

ひいてはそれらが再犯防止に役立つような活動をする。

なお、対象者との交流については、教員と香川県地域生活定着支援センターの方の協議の下行っている。また、**対象者と学生の個人情報**は互いに共有せず、学生は活動中に知りえた個人情報については口外しない旨の誓約書を提出し、すべての参加者は「プロジェクト中のニックネーム」で活動している。

# ①再犯の現状や刑事司法制度、 対象者との接し方等を学ぶための研修会



## ・令和3年 7月14日「田中弁護士による研修会」

ひらく法律事務所所属の田中弁護士に講師をしていただき、刑事弁護の実態や、近年の香川県における再犯防止活動などについて教えていただいた。特に、支援する立場の者の心構えや、対象者と適切な距離感をとることの大切さ等、再犯防止活動への向き合い方について学ぶことができた。

## ・令和3年 8月29日「福家氏・川村氏・津田氏による研修会」

香川県地域生活定着支援センター所長 福家氏、高松市障がい者基幹相談支援センター 川村氏、自立相談支援センター 津田氏により、活動をするにあたって個人情報取扱いに関する注意事項や、高齢者・障害者の方との接し方等についてご指導いただいた。また、事例を用いてグループワークも行った。

## ・令和3年 9月29日「自立援助ホーム」見学

特定非営利活動法人自立援助ホームこんぴら鞆橋荘 池田氏、横山氏により自立準備ホームに入所してくる少年たちの実態を教えていただき、多様な背景を持つ人々と関わる際に必要な、知識や心構えを施設職員の方々から学ぶことができた。

## ・令和3年 10月2日「自立準備ホーム 大塩氏による研修会」

NPO法人自立準備ホーム止まり木代表 大塩氏、保護司 泉氏から受刑者が自立準備ホームに行くまでの流れや地域と自立準備ホームとの関わり等を教えていただき、長期支援の重要性や多様な背景を持つ人たちへの接し方を学ぶことができた。

## ・令和3年 10月27日「高松矯正管区 山本氏による研修」

高松矯正管区更生支援企画課 山本氏により刑務所や少年院等の矯正施設の運営状況や取り組みについて教えていただいた。また、国の再犯防止推進計画や地方公共団体との再犯防止のための連携等についても教えていただき、再犯防止の現状を学ぶことができた。

## ②交流会（茶話会）

茶話会：対象者の方の話を聞くことで、その方を受け入れ、その茶話会自体が対象者の方にとっての居場所と出番となるようにすることを目的。

参加者：香川県地域生活定着支援センター福家氏、対象者1名、学生3～5名

- ・第1回 令和3年 7月21日 12：50～13：50
- ・第2回 令和3年 8月25日 13：00～14：20
- ・第3回 令和3年 9月 8日 13：00～14：20
- ・第4回 令和3年10月13日 13：00～15：00



対象者の方とコロナ禍での活動や趣味、休日の過ごし方などをお話した。茶話会終了後は、地域生活定着支援センターの方と振り返りを行い、良かった点や改善点を共有。普段から対象者の支援をされている地域生活定着支援センターの方から、茶話会で話す内容の中には初めて聞く話もあり、新たな学びになると言っていた。対象者の方も大学生とお話できる機会を楽しみにしてくれている。



# ③映画『プリズン・サークル』の自主上映会

- ▶ 目的：地域の方やこれからの社会を担っていく若者に知ってもらうことで、差別を減らし、罪を犯した人を受け入れやすい世の中を作り出す

日時：2021年7月5日(月)16:30-20:00

会場：香川大学法学部J1、J3教室

参加者：香川大学学生約160名、学外の方45名  
坂上香監督



## ○参加者の感想

学生は、「罪を犯すのは、内面的より外的な要因が大きく作用している為だと思った」「受刑者はみな幼少期に心の闇を抱えていて、犯行のことも純粋な気持ちでして驚いた」等、**家庭環境の影響の大きさ**について述べている意見が多かった。

学外の方は、「受刑者の生育歴や家庭環境のが及ぼす影響の大きさを知った」「受刑者の中には被害をうけてきた人が少なくないと感じた」など、**受刑者が犯行に至った背景**に着目している人が多かった。また「受刑者の背景を知り、加害者となるまで社会の中で救済される機会が全くなかったこと、これは私たち一人一人の課題であると思った」等、**受刑者の犯行背景**を知ったことで社会の支援に対し疑問を抱いている人もいた。



# 映画『プリズン・サークル』上映の効果

## ○刑務所や受刑者のイメージ（『プリズン・サークル』上映前 2021.04.12実施）

「怖い人多そう、脱獄を考えている、目がぎらついている、暴力的なイメージ。」

「一生“元受刑者”という社会的なイメージが付きまとう」

「受刑者の高齢化が進んで介護施設のようになっているイメージ」

「被害者の納得のいくような処遇が必要」

## ○受刑者に対してイメージの変化はありましたか（『プリズン・サークル』上映後実施）

【学生】 はい・・・72.6%      いいえ・・・27.4%

【外部】 はい・・・74.2%      いいえ・・・25.6%

「自分と似たような人がたくさんいた。思ったより明るかった。」

「怖い人だと思っていたが人間らしい感情をもった普通の人間というイメージになった」



# 今後（実施予定の活動・課題）

## ▶ 研修

11月11日（木）13時～14時半：被害者支援センターによる講演会

1月 坂井聡先生：障がい者支援についての研修

3月 伊藤好美先生：被害者支援についての研修

## ▶ 茶話会

月に一度（水曜日）に実施予定

## ▶ 丸亀上映会「プリズン・サークル」

日時：令和4年1月30日（日）13時～17時

主催：丸亀市、丸亀市文化協会

協力：さめき再犯防止プロジェクト（PROS）、公益財団法人丸亀市社会福祉協議会等  
（PROSは地域の方々に自分たちの活動等について発表予定）

## ▶ 長崎たまごの会

矯正施設を退所した者の社会復帰と再犯防止の支援が一番進んでいる長崎県地域生活定着支援センターと長崎大学の主に医学部生と長崎純心大学の福祉や診療を学ぶたまごの会の方から、長崎県地域生活定着支援センターの対象者とのオンライン交流会

日時：11月9日（火）18:00～19:00

ゲストスピーカー：・40代男性の方

※月に一度ミーティングを行い、プロジェクトの学生・教員・学外の協力者と活動の内容を話し合い、協議している。